

令和4年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画(最終評価)

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標(めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策(教育活動)	評価基準	中間期の達成状況・課題(結果と成果)	総合評価(中間評価)	年度末の達成状況(結果と成果)	評価基準に対する評価	総合評価(最終評価)	本年度の課題と次年度の方策
1 可能性を引き出す個別最適な学びの促進	教務課	「千鳥型学習指導のスタンダード」に基づく授業の実践、及び継続的な指導の改善を推進する。	校内互見授業と公開授業において、新学習指導要領の研究と授業実践の成果と課題を教員間で共有できるよう、授業改善につながる枠組みを整える。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校で行われている授業は、魅力的で、意欲的に取り組みたい授業ですか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 72%, R2 78%, R1 70%) 4:80%以上、3:75%以上、2:70%以上、1:70%未満 (教員)「笠岡高校では、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実践できていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 89%, R2 93%, R1 93%) 4:93%以上、3:90%以上、2:80%以上、1:80%未満 生徒と教員の指標で総合的に評価する。	・6月～7月に校内互見授業を実施した。 ICT活用の工夫を校内で共有するため、教科を超えたグループを作り、他教科の授業を見学した。実施後は「授業見学メモ」を使い授業者と見学者で意見交換をした。 ・8月に本校教員を講師として、「学びを自分ごとに」をテーマに授業力向上のための教員研修を行った。 ・11月には第2回公開授業または互見授業を予定している。	B	・11月7日～11日に授業公開を実施した。積極的な意見交換の結果、タブレット端末を活用した、探究的な学びに繋がる教科指導について教科の枠を超えた知見の共有を図ることができた。 ・生徒による授業評価アンケートの結果を教科内で分析し、成果と課題を教員全体で共有した。 ・学校自己評価アンケート(生徒)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は72%であった。また(教員)の肯定的回答83%であった。	2	B	・今年度入学生から新学習指導要領での学習がスタートした。主体的・対話的で深い学びがさらに深化するよう、指導と評価の一体化に関して研究と実践が求められる。 ・来年度は1人1台端末導入の完成年度である。そのことで可能となる新たな活用方法について、研究を進めていく。
	教務課	3つの学びのコースが生徒の個別最適な学びをサポートできるように、体制作りを推進する。	3つの学びのコースの3年間の指導計画を工夫・改善する。	学校自己評価アンケートで評価。 (2年生徒)「笠岡高校の教育はあなたの学力を最大限に伸ばすものになっていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3年度1年80%, 2年77%) 4:85%以上、3:80%以上、2:75%以上、1:70%未満	・3つの学びのコースの3年間の指導計画を工夫・改善するためのワーキンググループを立ち上げ、9回の会議を行った。 ・ワーキンググループの議論をふまえて、指導計画について、教員間の指導方針の共有を行った。	B	・3つの学びのコースの年間指導計画に従って現2年次生のコース別の行事(研修、講演会、特別授業)を実践した。それぞれの行事における、生徒の満足度は高い。 ・前期に教員間で共有した指導計画に従って、新たな形のクラス編成に基づく、講座編成や時間割編成の準備を進めた。 ・学校自己評価アンケート(生徒)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は75%であった。	2	B	・3つの学びのコースに関する、来年度の指導体制が確立できた。 ・来年度の指導体制が持続可能なものか検証し、再来年度に向けて改善のための議論を続けていく。
	教務課	生徒が情報機器を活用することで、自らの興味関心や学習内容を深めたり広げたりできるよう支援する。	教科等と連携してICTを利活用できる環境を整え、主体的・創造的な学びを支援する。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校のICTを利活用した学習は、あなたの興味関心を深める、または、学習内容の理解を助けるものとなっていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 80%, R3年度新規項目) 4:85%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	・9割以上の教員が各教科の授業において教材提示などでタブレット端末を活用している。 ・生徒は総合的な探究の時間をはじめ、多くの授業で共同編集の機能を利用して意見交換をしたり、自ら工夫して資料をデジタルでまとめたりしている。 ・オンライン授業配信においてYoutubeを利用して、高画質な授業動画を提供するようにした。	A	・オンライン授業を高品質で配信するため、タブレット端末やビデオカメラを運用しやすいように整備した。 ・講演会や式典の配信を高品質にするため、必要なICT環境を整備し、活用している。 ・端末やクラウドサービス等の故障や不具合などのトラブルに、早急に対応できた。 ・タブレットのアプリを工夫して利用する指導を行った結果、「1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート」(第2回)において、生徒の家庭における予習復習の活用状況が1年45.5%、2年60.1%、また、教員の積極的な授業活用状況は55.3%と県平均を大きく上回り、主体的な学びを促している。 ・学校自己評価アンケート(生徒)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は77%であった。	2	A	・本校ではGoogle、Apple、Microsoft等、多くのサービスを利用しているが、今年度、それらの運用面の利便性の違いや、いくつかの機能は一本化が可能であることなどが分かってきた。次年度は、サービスの整理や選択を行い、ユーザビリティの向上に努めたい。 ・ICTを利活用する環境の利便性向上のため、県整備と学校整備の2系統の学習系ネットワーク運用と教室PCやマルチメディア教室PC運用についてICT委員会を中心に考える必要がある。

令和4年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画(最終評価)

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標(めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策(教育活動)	評価基準	中間期の達成状況・課題(結果と成果)	総合評価(中間評価)	年度末の達成状況(結果と成果)	評価基準に対する評価	総合評価(最終評価)	本年度の課題と次年度の方策
2 夢と志を育むキャリア教育の深化	進路課	ACTを中心としたカリキュラムマネジメントを推進し、未来開拓力を育む。	ACTプログラムでの学びと教科や特別活動での学びとの往還を意識した教育活動が展開できるよう、校内外での生徒の学びの機会の充実を図る。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校は、「総合的な探究の時間(ACT)」などを利用して、将来の進路や生き方について、考えを深め、主体的に進路選択ができるように、計画的に指導ができていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 79%, R2 83%, R1 80%) 4:85%以上、3:80%以上、2:70%以上、1:70%未満	・1年次生のACTプログラムを一部改訂して、年間を通じたキャリア教育カリキュラムの一貫性を高めることができた。 ・2年次生「テーマ探究」において、探究先進コースが岡山大学を訪問して中間発表を行い、総合コースはWebを利用して大学の教員に探究方法の質問を行うなど、外部連携による探究活動の充実を図った。 ・ACT「地域学」発の竹喬美術館との協同活動が実現し、11月に同美術館で生徒主体で企画したモザイクアートが発表される予定。	A	・校外外の学びの機会は年間を通じて積極的に提供することができた。 ・竹喬美術館のモザイクアートを披露した期間は来場者数が増えるなど、生徒の活動が地域の活性化につながった。 ・各年次で工夫・改善を図り、ACTデー(校内発表会)では、招へいでいる大学教員から「完成度の高い発表ができています」と高い評価を得た。 ・県主催の「高校生探究フォーラム」等、探究活動の成果を発表する外部の機会に積極的に参加し、生徒は良い刺激を得ている。 ・本年度は集中的に探究活動に取り組む、「探究デー」などの設定により、活動の時間的な余裕を持たせることができた。 ・学校自己評価アンケート(生徒)①+②の割合79%	2	A	・校外における学びの機会はオンライン等も活用して今後も充実させていく。 ・総合的な探究の時間の内容や配当時間等を今後も検討をして、より良いものにしていきたい。 ・生徒に対して、ACT各プログラムの最初に取り組む趣旨について、説明するようにしているが、生徒が趣旨を十分にくみ取れるようさらなる工夫が必要である。 ・総合的な探究の時間担当者のスキルの向上が課題である。 ・総合的な探究の時間で培った知識や力が将来の学びに繋がっていることを積極的に伝えて、今以上にその趣旨や目的の共有を図りたい。
	進路課	キャリアカウンセリングを充実させ、個性と可能性を伸ばす進路指導を推進する。	生徒一人一人に応じたキャリアカウンセリングが効果的に行えるようにカウンセリングシステムを工夫・改善する。	学校自己評価アンケートで評価 (生徒)「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 91%, R2 92%, R1 93%) 4:93%以上、3:90%以上、2:80%以上、1:80%未満 (保護者)「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 89%, R2 84%, R1 83%) 4:93%以上、3:90%以上、2:80%以上、1:80%未満 生徒と保護者の指標で総合的に評価する。	・キャリア講座として、医療系ガイダンス(5月)、志望理由書作成講座(8月)、大学説明会(8月、2大学4学科)を実施。 ・1年次生の岡山大学訪問の実施、全年次生を対象としたfromページ社「夢ナビ」サービスの利用拡充を行うなど、文理選択やコース選択をはじめとした、志を育む進路研究をする機会を拡充した。 ・3つの学びのコースの指導方針について教員間で目線合わせをして、コース選択にかかわる生徒面談を充実させた。	B	・タブレット端末の活用により、資料配付やアンケート実施など、効率的な進路情報の提供ができた。 ・複数回実施した希望制のキャリア講座や年4回の生徒面談等を活用して、生徒一人一人に応じたキャリアカウンセリングを継続的に行うことができています。 ・学校自己評価アンケート①+②の割合89%(生徒)88%(保護者)	2	B	・総合的な探究の時間の趣旨をキャリア形成と関連づけながら丁寧に説明していく。 ・任意参加のキャリア講座を今後も充実させ、生徒の選択の幅を広げた上でニーズに応えられる体制を整えていきたい。

令和4年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画(最終評価)

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標(めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策(教育活動)	評価基準	中間期の達成状況・課題(結果と成果)	総合評価(中間評価)	年度末の達成状況(結果と成果)	評価基準に対する評価	総合評価(最終評価)	本年度の課題と次年度の方策
3 主体性と豊かなつながりを生み出す活動の充実	総務課	生徒が主体的に広報活動に参加できる機会を設けるとともに、生徒目線の広報活動を推進する。	学校広報活動において使用する、プレゼンテーションや動画の作成などの場面で生徒が主体的に活躍できる場を設ける。	広報活動において生徒が参画した事業数で評価。 (昨年度:5件) 4:5件以上 3:4件 2:3件 1:2件以下	・第1回オープンスクールと千鳥ゼミでは生徒主体の準備や運営ができた。 ・中学校母校訪問では、中学生向けのプレゼンテーションを生徒がタブレット端末を活用して作成し、生徒目線で中学生に紹介することができた。 ・今後、生徒目線で魅力的な高校紹介動画を作成していく。	A	・広報活動において生徒が参画した事業数は、学校紹介動画、第1回オープンスクール、第2回オープンスクール、千鳥ゼミ、笠岡放送「そこが聞きたい」収録、学校説明会の6件で、多くの生徒が主体的に活動することができた。 ・11月の学校説明会では、在校生による座談会において、生徒自身が作成した生徒目線の学校説明プレゼンテーション作成を用いて説明した。参加した中学生・保護者から好評であった。	4	A	・予定していた広報活動は順調に進めることができたが、最終調査の進学希望者数が募集定員に達しなかった。 ・中学生やその保護者のニーズを把握した、広報活動の見直しが必要である。 ・広報活動については次年度も本年度同様、生徒が主体的に参画できるよう活躍の場を確保し、生き生きとした生徒の姿をさまざまな形で発信したい。
	総務課	離島地域と連携し、主体的に課題解決に取り組む活動を通して、地域貢献への意欲向上を図る。	離島地域でのボランティア活動や島民との交流事業を実施し、生徒が主体的に地域貢献に参加する機会を設ける。	交流事業後、生徒アンケートを実施して評価。 「離島地域連携事業において、地域貢献に理解を深め、積極的にかかわることはできましたか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(新規実施) 4:80%以上 3:70%以上 2:65%以上 1:65%以下	・11月中旬に1年次生全員で飛島研修を実施予定。現在生徒実行委員会を編成し、交流活動や奉仕活動の進め方について検討を進めている。	B	・飛島研修では、地域貢献の意義に関する研修を受けた後、奉仕活動を行った。生徒は活動の意義を理解して、熱心に活動することができた。 ・生徒実行委員会は現地視察、事前実習などの準備から当日の指示まで、タブレット端末を活用しながら主体的に取り組むことができた。 ・事業後生徒アンケート結果は肯定的な意見が95.9%。	4	A	・地域の方々の協力のもと、生徒が主体的に地域貢献に参加する意識を育むことができた。 ・今年度は「おokayama高校生地域未来創造事業」として実施したため、来年度以降継続していくか、継続するならばどのような形で実施するか、などを検討する必要がある。
	教務課	国際社会で活躍し、その発展に貢献する人材を育成するため、国際交流活動を推進する。	アフターコロナを見据え、オンラインの活用等、事業を工夫・改善する。	年度内における、国際交流事業の企画立案・実施件数で評価。 4:3件以上、3:2件、2:1件、1:0件	・来年度のセブ島短期語学研修の実施に向けて企画を検討している。 ・オンライン国際交流について研究を進める。	B	・12月にスウェーデンに留学している日本人学生とオンライン交流を行った。 ・来年度のセブ島短期語学研修の実施企画のほか、新規に笠岡市との連携事業や国内での語学研修等の国際交流プランを作成した。 年度内における、国際交流の企画立案・実施件数は4件	4	A	・今後の国際交流のあり方を検討していくつかあった交流イベントを精査した。次年度はさらに計画の詳細をつめ、生徒に参加を促していく。

令和4年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画(最終評価)

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標(めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策(教育活動)	評価基準	中間期の達成状況・課題(結果と成果)	総合評価(中間評価)	年度末の達成状況(結果と成果)	評価基準に対する評価	総合評価(最終評価)	本年度の課題と次年度の方策
3 主体性と豊かなつながりを生み出す活動の充実	生徒課	ホームルーム活動や生徒会活動(各種委員会や学校行事等)への生徒の主体的な参加を促す。	・生徒会総務部を主体とした各行事の実行委員会の組織化及び各実行委員会における事前の打ち合わせや役割分担が効果的に行えるよう支援する。 ・できるだけ多くの委員会で、生徒が主体的な活動に取り組めるよう支援する。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「ホームルーム活動や生徒会活動(各種委員会や学校行事等)に、生徒が主体的に参加していると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 89%, R2 89%, R1 89%) 4:90%以上、3:85%以上、2:75%以上、1:75%未満	・球技大会や千鳥祭など生徒が中心となり、役割分担等をスムーズに行うことで主体的かつ組織的に活動することができた。 ・前年踏襲の形ではなく、生徒会総務部を中心に主体的に工夫改善し、行事の活性化を実現できた。 ・校内で七夕飾りを実施するなど、生徒会総務部が学校生活における生徒の意見をよく聞いて検討し、生徒の発案によるイベントを実施した。 ・創立120周年記念式典では、生徒会が式典進行の中心となり、来賓の方々から高評価をいただいた。	A	・新入生歓迎会、千鳥祭、球技大会など、生徒会総務部を中心に学校行事運営の主体的な取組ができ、行事が盛り上がりを見せた。 ・体育大会実施場所を来年度総合体育館に変更する提案や、校則の見直しについて、生徒が主体となって検討を行った。 ・学校自己評価アンケート(生徒)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は、88%であり、昨年度より1ポイント低下したが例年と同様な評価と判断できる。 ・アンケート結果の肯定的な回答割合に変化はないが、生徒会役員や総務部の主体的な取組の件数は増加している。	3	A	・今後は、生徒会総務部を主体として、生徒の運営組織をさらに強化していき、学校生活の様々な場面で生徒全員が関わっていく仕組みを構築していきたい。
	生徒課	生徒の主体的な部活動運営と積極的な参加を促す。	生徒によるミーティングの充実を図り、活動組織構築や活動計画の立案等、部活動運営全般に主体的に取り組めるよう支援する。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校では、多くの生徒が部活動に積極的に参加していると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 84%, R2 88%, R1 88%) 4:90%以上、3:85%以上、2:80%以上、1:80%未満	・各部とも、部長を中心とした生徒主体の活動を行うことができた。今後更なる活性化と教育的価値を見いだす取組が必要と感じる。 ・吹奏楽部が3年ぶりの定期演奏会を実施、書道部が福山城築城400年イベントでパフォーマンスを行い、サイエンス部が近隣の小学生を招いてワークショップを行う等、生徒が地域で活躍する場面が増加した。 ・陸上部が中国大会に出場する等の実績を残すことができた。	B	・各部において活動計画立案や練習メニューの作成など、生徒主体の部活動運営を行うことで、充実した活動となった。 ・サイエンス部が地域の小学校の「総合的な学習の時間」の一環として生徒主導のワークショップを開き、地域連携の取組ができた。 ・学校自己評価アンケート(生徒)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は、79%であり、昨年度より5ポイント低下した。	1	B	・本校における部活動の位置づけを明確にし、その目的達成のために教員と生徒が方向性をよく話し合っ活動に取り組む必要がある。
	生徒課	挨拶をはじめとしたコミュニケーションスキルを高め、好ましい人間関係を形成する能力の向上を図る。	・生活委員会や生徒会総務部を支援し、生徒主体のあいさつ運動の実現を目指す。 ・教員が率先して励行することで、豊かなコミュニケーションが図れる環境づくりを推進する。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校の生徒は、学校内や地域で、積極的に挨拶ができていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 44%, R2 68%, R1 55%) 4:80%以上、3:70%以上、2:60%以上、1:60%未満 (教員)「笠岡高校は、積極的に挨拶をするよう指導ができていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 43%, R2 56%, R1 54%) 4:80%以上、3:70%以上、2:60%以上、1:60%未満 生徒と教員の指標で総合的に評価する。	・生活委員会であいさつ運動を行った。一定の評価はできる。 ・昨年度よりHRの鍵を職員室内での管理にしたことをきっかけに、職員入室時のあいさつを含む礼法が改善された。 ・教員が率先して挨拶を励行することで、日常的なあいさつについても改善されつつある。	B	・教員が日常の挨拶を心掛け、成果が上がりつつある。 ・生徒主体の挨拶運動を継続的に実施することができた。 ・学校自己評価アンケート(生徒)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は、64%であり、昨年度と同ポイントであった。また、(教員)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は、66%であり、昨年度から23ポイント増加した。	2	B	・挨拶に関して教員の意識は向上したものの、生徒の意識向上は改善の余地がある。 ・生徒の挨拶への意識向上に向けての教員の共通理解と日常の指導についてさらなる努力が求められる。 ・評価割合が生徒、教員共に60%代と低いため次年度も重点を置いて、改善していきたい。
	生徒課	防災・安全についての意識を高め、防災・安全に関する社会貢献活動に積極的に取り組もうとする態度を養う。	・防災避難訓練を複数回実施し、避難経路の確認から避難の実際までを系統立てて行う。 ・防災に関する探究活動の取組を推進し、生徒主体の防災・安全に関する提案ができる体制を支援する。	学校自己評価アンケートで評価。 (生徒)「笠岡高校で災害・非常事態が起こったとき、どのように行動することになっているか、わかっていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(R3 65%, R2 57%, R1 65%) 4:80%以上、3:70%以上、2:60%以上、1:60%未満	・防災マニュアルを作成し周知に努めた。 ・6月に防災避難訓練を実施し、初期対応・避難経路・自衛消防隊組織の確認を行った。想定した時間より速やかに、生徒は落ち着いて行動できた。	B	・組織的、継続的な学校安全活動を継続した結果、岡山県学校安全推進学校表彰を受けた。 ・避難訓練は予告有り予告無し2回行い、実践力を養った。 ・学校自己評価アンケート(生徒)の該当項目の肯定的回答(①+②)の割合は、75%であり、昨年度より10ポイント増加した。	3	A	・昨年度からのきめ細かな取組が実を結びつつある。今後もその取組を充実させるため、前年踏襲ではなく創意工夫のある取組を目指したい。